

平成 29 年度 名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 30 年 1 月 11 日に「平成 28 年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

平成 30 年 5 月 1 日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員（出席者）

1. 平澤 琢二（名古屋市中村区歯科医師会 会長）
2. 社本 太郎（株式会社モンシエル代表取締役社長）
3. 茶谷 敦孝（株式会社さんぽう 企画営業第 2 グループリーダー）
4. 松永 奈津希（歯科衛生学科 同窓会会長）
5. 野口 実咲（製菓製パン本科 同窓会会長）
6. 中尾 聡（名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 学校長）※当時
7. 岩田 壮介（名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 事務長）
8. 杉本 佳史（名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 副事務長）
9. 溝田 智也（名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 主任）

●オブザーバー（本校教職員）

加藤直美、後藤一宏、矢濱竜淑

以上 12 名

2. 平成 29 年度 自己評価（平成 28 年度の学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
（1）教育理念・目標	評価：適切である。 課題：入学者・保護者への周知と教員間での共有が足りないことがある。 改善策：保護者向けの発信を多く行う。学校広報誌、保護者の来校機会を増やす。 HP などの情報開示、外部への PR も行う。
（2）学校運営	評価：適切である。 課題：さらなる業務の効率化が必要であると感じる。 改善策：各種規定などの整備。業務効率面では情報共有の徹底にて対応を行う。

(3) 教育活動	評価：適切である。 課題：現場に沿ったカリキュラム構築。外部評価の取り入れがまだ足りない。 さらなる授業評価が必要。教員の指導力向上が必要。 改善策：授業評価の実施、外部講師（内部講師）による研修会等の実施
(4) 学習成果	評価：適切である。 課題：目的意識の低い学生の入学。入学前・在学中に目的意識を持たせる。 卒業後の離職率を下げる。 改善策：学生の態度を事前察知することにより、教員から積極的に声を掛け、面談を行うことによる退学率低減。経済面で厳しい学生には奨学金の呼びかけを早急に行うことを心掛ける。在学中に、卒業後の社会への貢献について想像させるようにする。
(5) 学生支援	評価：適切である。 課題：保護者との連携。在学生とのつながりのある人との関係強化。 担任による取り組みの違い。精和高等専修学校とのさらなる連携。 教職員の視野の拡張。 改善策：在校生に職業理解の場をさらに増やす。グループ校との連携の強化（内部進学への道も含む）。学生への情報提供の促進。
(6) 教育環境	評価：適切である。 課題：防災について、今のところ現状の内容で対応可能だが、今後の変化にも対応すべく新しい内容が必要。避難経路の確保。防災委員会の設置。 改善策：海外研修は希望制へと変更。非常階段付近の整理による避難経路の確保。姉妹校との連携で防災委員会の設置及び防災意識の向上。
(7) 学生の受け入れ 募集	評価：適切である。 課題：OC 参加者の減少。学費納入困難の学生の増加。他校との差別化。 受験者確保による入学生の質の向上。 改善策：ニーズを捉え、イベント参加者が興味を持つような内容にしていく。 教職員間での競合他校の情報共有。外部への PR 方法を熟考する。
(8) 財務	評価：適切である。 課題：短大が設置され、管轄の変化による本校としての順応。 改善策：情報公開について。ホームページ等での公開。
(9) 法令等の遵守	評価：適切である。 課題：公平な評価の持続 改善策：自己評価についてはホームページにも公開。 外部からのガラス張りとなっているため、今後も続けていく。
(10) 社会貢献・ 地域貢献	評価：適切である。 課題：地域貢献の面で、OC や文化祭以外での自治体イベント等への参加が少ない。 改善策：製菓店舗販売等はできているが、公開講座や中学生向けの職業体験を開くなど、さらなる展開をしていく。

3. 平成 29 年度 学校関係者評価（平成 28 年度の自己評価についての評価）

項目	評価
（１）教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
（２）学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	適切である。
（３）教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
（４）学習成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	適切である。
（５）学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	適切である。
（６）教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」	適切である。
（７）学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
（８）財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
（９）法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
（１０）社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	大項目で「適切」といった場合においても、小項目でひとつでも不適切であった項目に対しては、今後、課題を解決しつつ改善に努めていただきたい。また、各業界のニーズに対しては、教育課程編成委員会、学校内の委員会等でしっかり議論をしていただき、教育に反映していただきたい。